

クイーンズランド大洪水の初期復興活動状況の考察

東北工業大学 学生会員 ○地代所宏行

東北工業大学 フェロー会員 稲村肇

1. はじめに

クイーンズランドの大洪水は、2010年の12月からのサイクロン・ターシャに始まり、その後、2011年1月サイクロン・アンソニーと、2月サイクロン・ヤシが発生し、それらによって発生した大洪水によってクイーンズランドは大きな被害を受けた。日本の東日本大震災もほぼ同時期に発生したが復興の歩みは遅い。本研究では、クイーンズランドでの大洪水の発生直後の3月、4月、5月の月例報告や州計画を詳細に検討し、災害復旧の初期の活動を検証する。

2. クイーンズランド復興庁の設立

クイーンズランド復興庁は2011年2月21日に設立された。その復興の枠組みは6分野に分けられている。すなわち、①人間社会分野(コミュニティー省担当)、②経済分野(雇用・経済発展省担当)、③環境分野(環境・資源管理省担当)、④建築物修復分野(公共事業省担当)、⑤道路・交通・運輸分野(道路交通省担当)、⑥地域社会・通信関係(内閣府担当)となっている。この6分野は2012年になってからも継続して活動し続けている復興の核となっている部分である。本稿では紙面の都合上①、②、④、⑤について述べる。

3. 復旧の過程(最初の1か月)

3月の月例報告によれば、2月3日のサイクロン・ヤシの襲来直後から復旧活動は始まっている。復興庁の成立は2月21日であるため、復興庁の設立以前から復旧がはじまったことになる。これを復旧の6分野別に見てみよう。

1) 人間社会分野

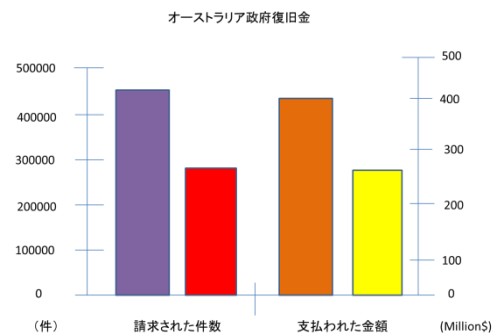


図-1 オーストラリア政府復旧金(市町村)

(紫、洪水 赤、サイクロンヤシ: 橙、洪水 黄、サイクロンヤシ)
洪水に対して3月初旬までに400万件請求があり、それに対して4億\$支払い。サイクロンヤシに対しては約250万件に対して2.5億\$の支払いがなされている。

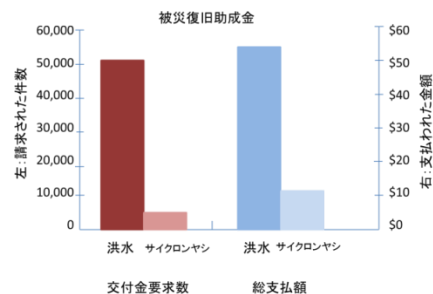


図-2 被災復旧助成金(個人所得補償)

洪水での5万件に対して約4000万\$の支払いがされ、サイクロンヤシでの4000件に対して1000万\$の支払いがなされた

2) 経済分野

第一次産業に対しては生産被害に対する補償額と

して支払いがされている。2月10日には約500件にし200万\$、2月17日には約800件に対して400万\$、3月3日には約1500件に対して800万\$が支払われている

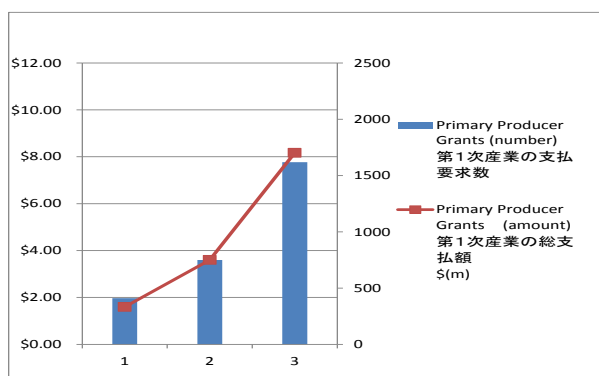


図-3 第一次産業への支払 (1: 2/10 2: 2/17 3: 3/3)

3) 建築物修復分野

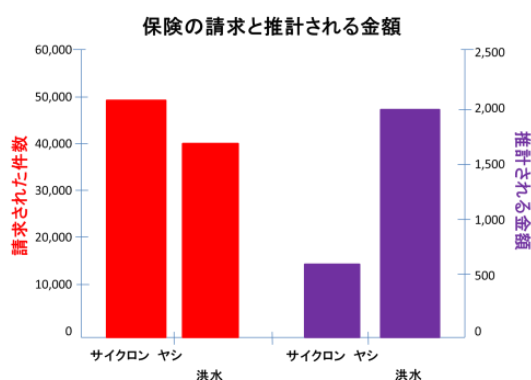
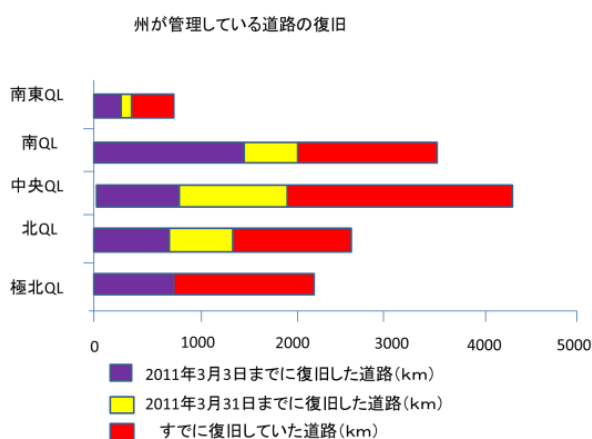


図-4 保険の請求と推計金額(左:請求件数 右:推計金額)

建築物の修復はこの時点では請求段階にある。1件当たりの保証額の推計は洪水と比較してサイクロンヤシに対する額が少ない

5) 道路・交通・運輸分野



被災直後のため、中央 QL を中心とした中心部からの復旧が進んでいる。この距離は、クイーンズランド全体の67%が3月までに復旧したことを示している。

4.月例報告の内容に見る復興の焦点の変化

最初の月例報告である3月の報告は、1章、2章で復興庁についての記述している。本編は第3章である。3章では復興の6部門別の報告になっている。さらに付録で予算や各種の地図が掲載されている。

4月になると上記以外にグラントム地域という具体的な地区の復興状況が示されている。これは代表的な復興形態を示し、各地での復興の指針的意味があると思われる。

5月になると一気に報告が約2倍の規模になっている。最も特徴的なのは援助金の配分状況に報告が追加されたことである、これにより、復興が次の段階に入り、本格的に予算執行が行われ始めたことがわかる。

5. おわりに

クイーンズランド州の復興を見ると、道路や港湾といった公共施設の復旧はわが国と同様であるが、市町村や個人、第一次産業、中小企業に対する復興が非常に速いことが特徴である。それは、第一は被災している人に近い州の復興庁による政策が最大の理由と思われる。また、建築物の復興がほとんど保険によってなされている点がわが国と違う(確認が必要)。

最後の被災から1か月の3月の時点で、核となっていた6つの分野の復興の半分以上の復旧は進んでいた。その後の経過を見ても復旧に関することは4月も5月で多くの分野で元通りになっている。こうした復旧の速さを支える制度の違いなどを今後調査する必要がある。

参考文献

- 1) クイーンズランド復興月例報告
- 2) クイーンズランド州計画
- 3) 日本国：復興庁ホームページ